

福島県の工芸 < 染織物編 >

福島県には、国指定伝統的工芸品に指定されている「会津塗」「会津本郷焼」「奥会津編み組細工」「大堀相馬焼」をはじめとして、40品目の伝統的工芸品があります。このような県内の工芸品のうち、今回は染織物についての資料を紹介します。

Rがついているのは図書館の中でご覧いただく資料です。貸出しておりません。

染織物

	蚕と絹の民俗 歴春ふくしま文庫 31	村川友彦／著	歴史春秋出版	2004年	L081.6/R1/31
	福島県内の養蚕文化についてまとめられています。				
	天の絹絲 ヒトと虫の民俗誌	福島県立博物館／編	福島県立博物館	1998年	L069/F3/46
	平成10年に開催された展示の図録です。福島県における養蚕についても詳しく解説されています。				
	衣風土記 2	松岡未紗／著	法政大学出版局	2006年	L753/M1/1
	p.63-158 「福島篇」				
	本町・機屋と関連業	本町地区自治会地域文化資源 発掘事業／[編]	本町地区自治会	2004年	L586.2/M1/1
	川俣町の絹の歴史について紹介されています。				
R	川俣町絹織物史年表	織物展示館／[編]	織物展示館	2002年	L630.2/O1/1
R	伊達地方の養蚕業 奥州蚕種本場の盛衰	伊達市保原歴史文化資料館／ 編	伊達市保原歴史文化資料館	2009年	L630.2/D4/1
	p.35-46 「生糸・真綿・機織り」				
	縞帳を尋ねて 郷土の織りの伝承	高橋キヨ子／著	佐藤和子	2005年	L753.3/T1/1
	縞帳余聞 「織り方手引き書」による郷土の織りの伝承	高橋キヨ子／著	高橋 キヨ子	2013年	L753.3/T1/2
	明治時代から機を織る人の手本とされていたという会津の「縞帳」のほか、福島市近辺等の縞帳を収集し記録としてまとめられています。				
	青木木綿調査報告書 1 青木木綿 会津坂下町民俗 文化財調査報告書 第1集	会津坂下町教 育委員会／編	会津坂下 町教育委 員会	2012年	L380.8/A1/1-1

会津型

	会津型喜多方の染型紙	喜多方市郷土民俗館／編	喜多方市郷土民俗 館	1994年	L587.4/K1/1
	会津型喜多方の染型紙Ⅱ	喜多方市郷土民俗館／編	喜多方市教育委員 会	2000年	L587.4/K1/1-2
	染める 会津型の技と文化	福島県立博物館／編	福島県立博物館	1997年	L069/F3/42
	平成9年度第3回企画展の展示図録です。型紙の誕生や会津小野寺家の型紙について詳しく解説されています。				
	染色型紙 福島県立会津工業高等学校コレクション	福島県立会津工業高 等学校所蔵作品・染色 型紙出版委員会／編	福島県立会津工業 高等学校所蔵作 品・染色型紙出版 委員会	1994年	L587.4/A1/1
	県立会津工業高校に保存されていた染色型紙の図録。				
	会津型の保存・整理について	壺井須美子／著	壺井須美子	1991年	L753.8/T1/1
	喜多方の会津染め型紙(会津型)についてまとめられています。				
R	型紙伝承フェスタ報告書	会津型紙研究会／編	型紙伝承フェスタ実 行委員会	1996年	L753.8/A1/1
	平成7年に喜多方市で行われた「型紙伝承フェスタ」の記録集。				

からむし からむしとはイラクサ科の多年草で、織物の原料となります。

会津に生きる幻の糸カラムシ 伝播のルートを探る 歴 春ふくしま文庫 43	滝沢洋之／著	歴史春秋出版	2013年	L081.6/R1/43
会津のカラムシの実態や歴史についてよくまとめられています。最上・米沢地方や沖縄地方、台湾といった他地域のカラムシの紹介や、カラムシの里の現在についても紹介されています。				
からむし(苧麻)全集 六百余年の伝統	羽染兵吉／〔著〕	羽染兵吉	2007年	L618/H1/1
からむし生産について詳しく紹介されています。				
福島県昭和村におけるからむし生産の記録と研究「か らむし」を通して見た植物と人間の共生	昭和村生活文 化研究会／編	昭和村生 活文化研 究会	1990年	L618/S3/1
からむし生産の技術が紹介されています。現地の聞き取りデータも収録。				
からむしを育む民具たち 福島県昭和村 博物館シリーズ 10	からむし工芸博物館／編	からむし生き生き研 究会	2007年	L618/K2/1
「昭和村のからむし生産用具とその製品371点」から抜粋したものを中心に、昭和村に残る民具につ いて紹介されています。それぞれの用具の使用法や製作法もまとめられています。				
昭和村のからむし生産用具とその製品371点 福島県 指定重要有形民俗文化財 シリーズ NO 5	昭和村文化財 保護審議会／ 編	昭和村教 育委員会	1984年	L618/S2/1
福島県指定重要有形民俗文化財「昭和村のからむし生産用具とその製品371点」をまとめたもの。				
からむし年譜	昭和村農業協同組合工芸課／ 編	昭和村農業協同組 合工芸課	[1983年]	L618/S5/1

しのぶもじずり

『福島大百科事典』(p.416「信夫もじずり」)によると、「しのぶ草などの草や花の汁をすりつけて染めた絹布などは狩衣などに使われ、信夫の里の特産」でした。また、「文知摺観音」境内にある「文知摺石」には伝説があり、百人一首にも「みちのくのしのぶもぢずりたれゆゑにみだれそめにしわれならなくに」とあります。松尾芭蕉が訪れるなど歌枕としても知られています。ここでは、「しのぶもじずり」のことに興味をもちたいときの参考資料を紹介いたします。

「しのぶもちずり」「信夫文字摺」等のキーワードでは

R	しのぶもちずり研究	川俣高等学校必修クラブ郷土 誌／編	川俣高等学校必修 クラブ郷土誌	1985年	L753.8/K1/1
研究結果がまとめられています。復元実験の記録もあり。					
R	福島女子短期大学研究紀要 創刊号 p.108-114「もちずり染」渡辺絹子／著		福島女子短期大学	1969年	L051/F8/1-1
R	福島名産しのぶもちずり	三好伊助／著	三好伊助	1893年	L291.1/M5
	信夫文字摺之記	山口道賀／編	山口道賀	1908年	L291.1/Y
R	しのぶもちずり	横山玄彰／著	安洞院	1937年	L291.1/Y2/2

福島市史には

福島市史 別巻7 福島文化	福島市史編纂委員会／編	岩瀬書店	1989年	L211/F6/20
p.583-586「信夫文字摺染絹」、p.629「しのぶもぢずり」として詳しく記載されています。				
福島市史 第1巻 原始・古代・中世(通史編1)	福島市史編纂委員会／編	福島市教育委員会	1970年	L211/F6/1
p.272-277「信夫もちずり」				
福島市史資料叢書 第3輯 (p.119)	福島市史編纂準備委員会／編	福島市史編纂準備 委員会	1960年	L211/F3/3

石の伝説を知るには

ふくしま文庫 28 ふくしまの伝説 (p.24)	福島中央テレビ／企画・編	FCTサービス出版 部	1976年	L081.6/F3/28
福島の伝説 日本の伝説 45 (p.52-53)	石川純一郎・竹内智恵子／著	角川書店	1980年	L388/I2/2
信達民譚集 (p.96-101)	近藤喜一／著	ヨークベニマ ル	1995年	L388/K1/2